



2019年1月17日「奥浅草だより」 第19号

## 吉原さいごの芸者・みな子姐さん

吉原の芸者とは 芸者というのは遊郭の歴史とともに続いた職業です。遊郭の主人公は花魁（遊女）で、客は花魁を目指して遊郭へ遊びに来るのですが、遊郭は客を最高にもてなすために、まずは飲食と芸能つきの芸者の接待を提供するのが正式でした。しかし江戸も中期以降、遊郭が大衆化するとともに、芸能接待も軽重いろいろになりました。明治期に入ると、遊郭の外の待合接待が増え、芸者は赤坂・新橋などに活躍の場が拡がりました。並行して吉原遊郭の芸者界も、1958年の遊郭廃止まで続きましたが、人数は減少を続けました。芸者は花魁ではないので、遊郭がなくなっても残った茶屋で営業することができましたが、それも吉原では最後の店が閉じた1998年までで、その後は独立してほかの花街に出張して続けた芸者が、この「みな子姐さん」です。

みな子姐さんが何故すごい 四代目みな子姐さんは（1919—2010年）、11歳から吉原の芸者界に入り、90歳まで生涯現役を貫いたホンモノの芸者です。大正・昭和・平成を通じて、お稽古と仕事で365日、休みがなかったといひます。吉原芸者の誇りと意地を捨てず、さいごまで吉原（日本堤）に住み、芸を披露しました。

みな子姐さんに5年間密着取材 江戸文化研究家の安原真琴は、たまたま知り合ったみな子姐さんの芸者根性にほれ込み、2005年から2010年まで取材を重ね、「粹ってなんだろう。大正—平成を生き抜いた吉原芸者の証言記録」というドキュメンタリを作り上げました。空前絶後の生涯現役芸者の映像記録です。

この中には、「かっぼれ」や「吉原さわぎ」など20の芸が披露されています。2018年にはDVDが発行されました。

この「奥浅草だより」は『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の発行後話題を拾って不定期に発行しております。

サノックスのホームページでもご覧いただけます。

<http://www.sanox.co.jp>

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子